



えひめこどもの城 魅力向上戦略 ～「To-beの森」プロジェクト提案報告書～

平成31年3月
えひめこどもの城魅力向上検討委員会



も く じ

第1章：基本的事項	1
1 目的	
2 目標とする期間	
3 成果目標	
4 戦略の構成	
第2章：えひめこどもの城の概況	
1 施設の概況	2
2 えひめこどもの城を取り巻く状況	4
(1) 入園者数の推移	
(2) 愛媛県の人口	
(3) 周辺地域の特性	
(4) 児童厚生施設（県立大型児童館・児童遊園）の役割の多様化	
(5) 豊かな緑の空間と抱える課題	
(6) えひめこどもの城へのアクセス	
(7) 施設、遊具の老朽化	
3 実態調査	11
(1) 利用者に対する調査	
(2) 観光客に対する調査	
(3) WEB への投稿状況	
第3章：魅力向上推進プラン（魅力向上戦略）	
1 えひめこどもの城の将来像	19
2 将来像の実現に向けた基本的考え方（行動目標）	20
3 将来像の実現に向けたハード整備計画	21
(1) 敷地管理体制	
(2) 大型遊具（コンテンツ）の導入方針等	
(3) 既存遊具・設備整備（修繕等）方針	
4 具体的な行動計画（アクションプラン）	27
(1) 魅力づくりのための4つの視点	
(2) 取り組みの展開例	
5 戦略の推進イメージ	33
付 録	
● えひめこどもの城魅力向上検討委員会設置要綱	
● えひめこどもの城魅力向上戦略検討経過	
● えひめこどもの城魅力向上戦略委員会委員名簿	



第 1 章：基本的事項

①目的

本戦略は、開園 20 周年を迎えたえひめこどもの城が、これから先も、子どもや家族連れをはじめ多くの幅広い年齢層の皆さんに親しまれる施設であり続けるために、多様なニーズへの対応や多彩な遊び・体験の創出など、子どもの健全育成のシンボルとして求められる具体的な取り組みについて、様々な立場から提案するものです。

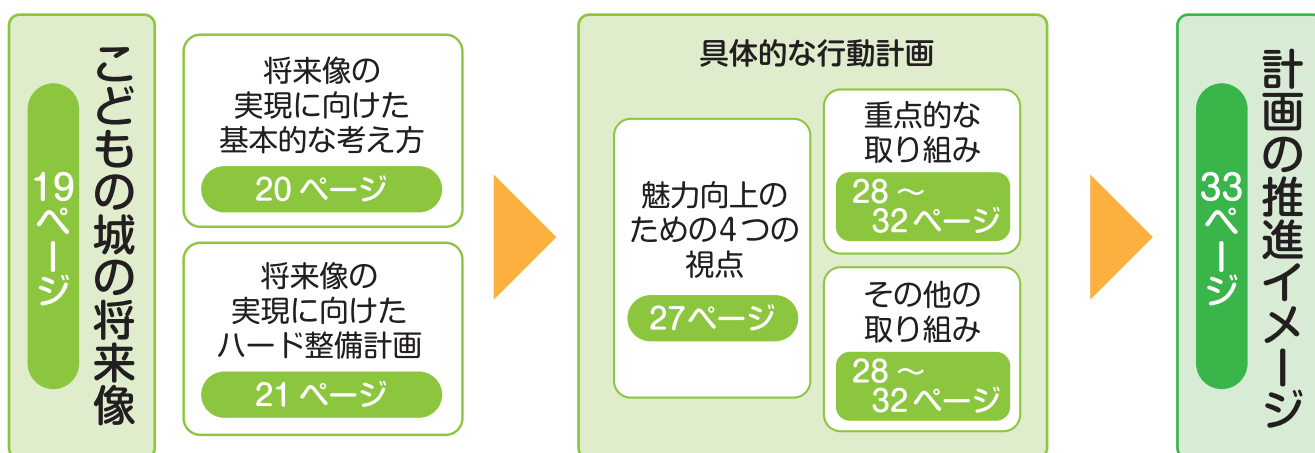
②目標とする期間

本戦略は、概ね 10 年後のえひめこどもの城の将来像を定め、その実現に向け、今後 5 年間（2019 年度～ 2023 年度）の行動計画を示します。

③成果目標

来園者数（2018 年度目標値）40 万人
⇒（5 年後 2023 年度目標値）45 万人

④戦略の構成





第2章：えひめこどもの城の概況

①施設の概況

■開園の背景

子どもたちが、豊かな自然環境の中で、仲間同士や家族等とのふれあいを通じて、遊び体験をはじめ、自然体験、社会・文化体験等さまざまな体験活動を行うことにより、創造性や自主性、社会性、豊かな感性等を育むことができる、本県の子どもの遊びと創造のシンボルであるとともに、県内の児童館等児童関連施設の中核的センター機能や指導者の養成等を行う研究・養成機能を持つ総合的な拠点施設として、平成10年10月に開園。

■施設の位置づけ

児童福祉法に基づく児童厚生施設
(児童遊園、児童館等児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とする施設)

■施設の機能

- ① 大型児童館をはじめ各ゾーンの体験施設等において、子どもが遊びを通じて、仲間や家族等とふれあいながら、自然、創造、運動、社会・文化体験等様々な体験活動ができ、子どもたちに興味と関心を喚起させる体験機能
- ② 県内の児童館、児童センターなどの情報把握や相互利用を図るほか、その運営等を指導するなど、県内児童館等の連絡調整及び児童館活動の充実を図るための指導の役割を果たすセンター機能
- ③ 児童健全育成活動において活用できる各種遊びの内容や指導技術に関して、調査・開発等を行い普及させるとともに、児童厚生員(児童の遊びを指導する者)等児童館職員をはじめ児童健全育成活動の指導者やボランティアの育成及び資質向上を図る研究・養成機能

■主な施設

①体験施設 31.2ha

1 こどものまちゾーン (3.9ha)

大型児童館 [鉄筋コンクリート造 3階建て 延床面積：4,072.22 m²]

【1階】 エントランスホール、こどもタワー 等

【2階】 多目的ホール、図書コーナー、相談コーナー、幼児コーナー、こども会議室、こどもエレベータ、音楽室、みきゃんデジタルアートミュージアム、管理事務室 等

【3階】 ワークショップ、クッキングルーム、研修室、ボランティアルーム、おもちゃの歴史ギャラリー 等

【屋上】 探索園(錯視錯覚遊具)[光の塔、空の塔、こだまの塔、風の塔、光のトンネル、こだまのトンネル、風と音のベンチ、迷路の園 等]

2 イベント広場ゾーン (2.0ha)

芝生広場、くわがたのステージ、じゃぶじゃぶ水路、みずべのレストラン、親水護岸 等

3 創造の丘ゾーン (2.8ha)

創作工房、ハーブ園、花の丘、さくら橋、さくらの小径、水辺のデッキ 等

4 冒険の丘ゾーン (8.7ha)

冒険ステーション、四輪バギー、てっぺんとりで、ボブスレー、てんとう虫のモノレール、サイクルモノレール 等

5 ふれあいの森ゾーン (13.8ha)

森のとりで、森の広場、せせらぎ、ふれあいの池、森の迷路、野鳥の森、果実の森 等

①その他 3.4ha

1 松山側駐車場 [乗用車 395 台 (大型バス 10 台を含む)] (1.1ha)

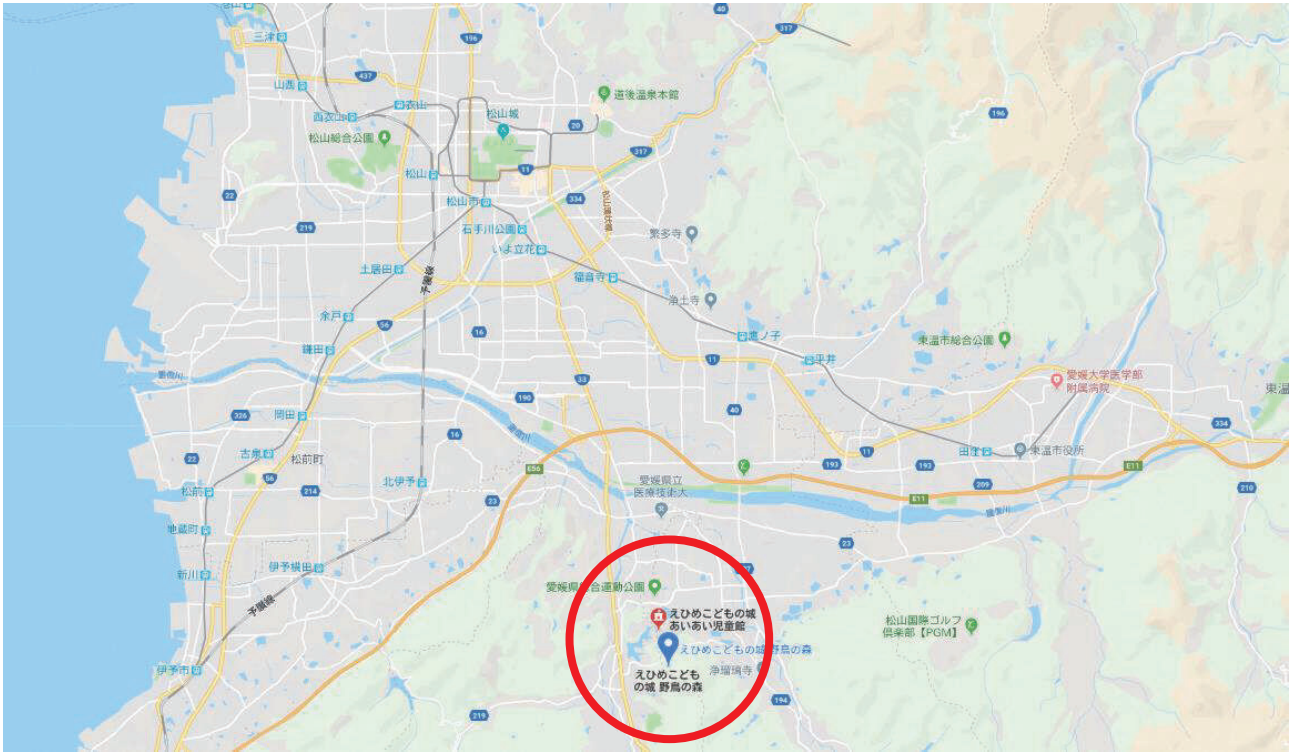
2 砥部側駐車場 [乗用車 105 台] (1.1ha)

3 その他 (2.1ha)



■ 施設の設置場所

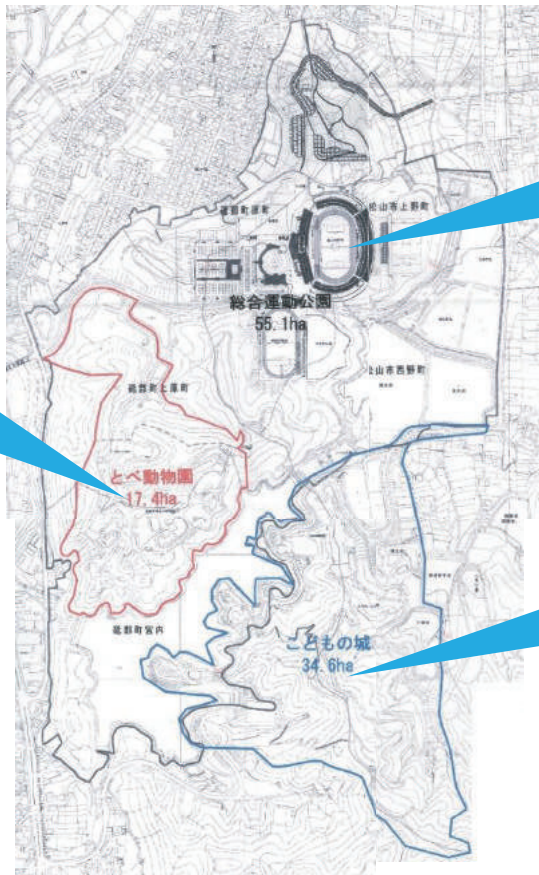
愛媛県松山市西野町および砥部町宮内にまたがる区域
(県立とべ動物園、県総合運動公園と隣接)



対象面積：34.6ha



とべ動物園



県総合運動公園



えひめこどもの城



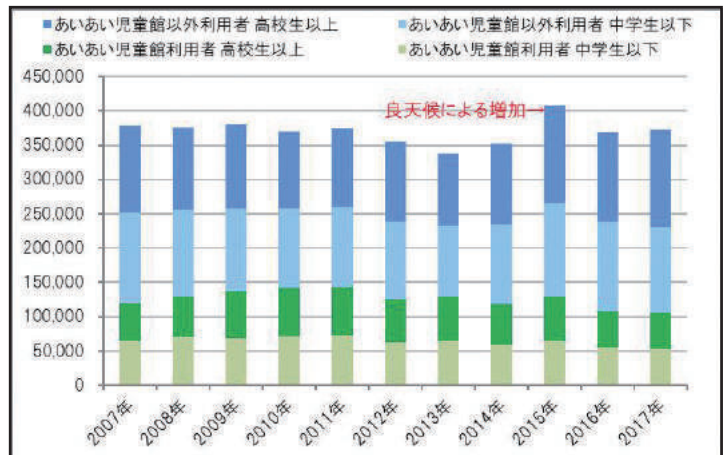
②えひめこどもの城を取り巻く状況

(1)入園者数の推移

■全体入園者と児童館入館者数

	全体	児童館	児童館比率
2007年	379,030	120,239	32%
2008年	376,110	128,949	34%
2009年	380,294	136,851	36%
2010年	370,220	141,613	38%
2011年	374,700	143,606	38%
2012年	354,630	126,330	36%
2013年	338,250	129,006	38%
2014年	351,670	117,804	33%
2015年	408,090	128,393	31%
2016年	368,590	108,915	30%
2017年	372,296	104,701	28%

■児童館入館者とそれ以外の利用者の推移



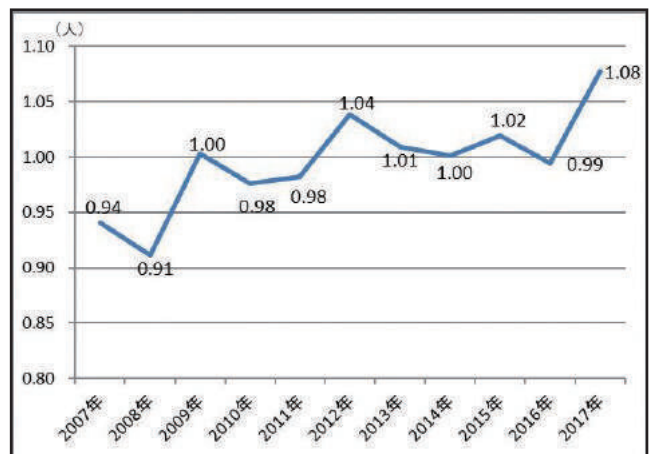
2007年から全体入園者数は約34万人～40万人の間を推移。うち、児童館の入館は約11万人～14万人。2007年から2010年にかけて、児童館への入館数は増えているが、全体入園者数への影響は小さい。また、10年間で入園者数が最も多い2015年は、週末に天気の良い日が多かったことが要因となっている。

上記より、全体の入園者数を増やすには、キャパシティの決まっている児童館をフックにするよりも、**アウトドア(児童遊園)でのアクティビティ改善に注力する方が、効果が高い**と思われる。

■中学生以下と高校生以上の入園者数

	入園者数		子ども(中学生以下)1人に対する大人(高校生以上)人数
	中学生以下	高校生以上	
2007年	195,310	183,720	0.94
2008年	196,780	179,330	0.91
2009年	189,851	190,443	1.00
2010年	187,300	182,920	0.98
2011年	189,040	185,660	0.98
2012年	173,990	180,640	1.04
2013年	168,340	169,910	1.01
2014年	175,720	175,950	1.00
2015年	202,100	205,990	1.02
2016年	184,840	183,750	0.99
2017年	179,240	193,056	1.08

■子どもに対する大人入園者数の推移



子ども(中学生以下)1人に対する大人(高校生以上)の入園者数は10年間で徐々に上昇している。少子化の人口予測を踏まえると、この傾向は続く可能性が高い。

子どもだけでなく、大人も楽しめる場所にしていけることが、来園者の満足度を高めることになる。



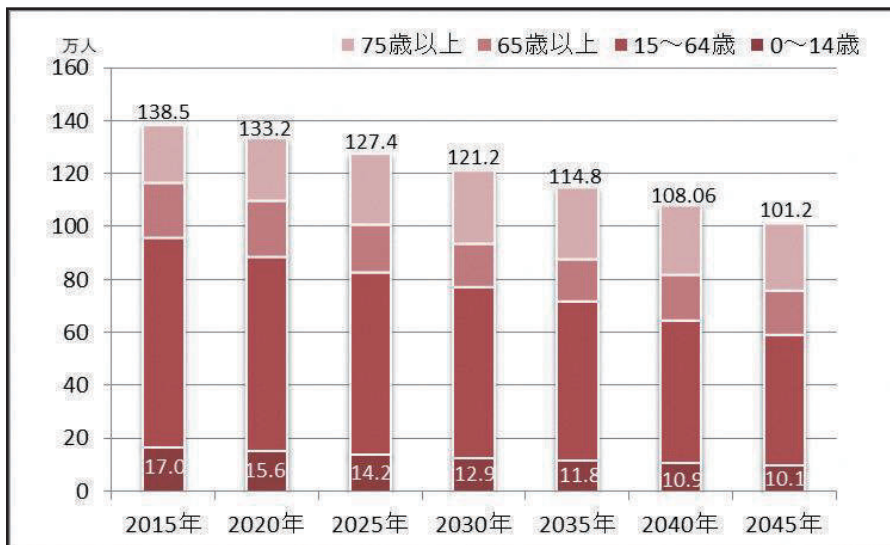
(2) 愛媛県の人口

■愛媛県の人口

2017年 10月1日現在	男女計 (千人)			
	15歳未満	15～64歳	65歳以上	うち 75歳以上
愛媛県	164	762	437	225
割合	12.0%	55.9%	32.1%	16.5%

出典：総務省 統計局

■将来人口推計



出典：
総務省 統計局
国立社会保障・人口問題研究所 将来推計人口
2018年推計（2015は国勢調査実績値）

愛媛県の人口は2017年で約136万人。今後、減少が続き、2045年には約101万人程度となる見込み。うち、15歳未満の人口は2015年の約17万人から2045年には約10万人となると予測されている。

■四国の人口

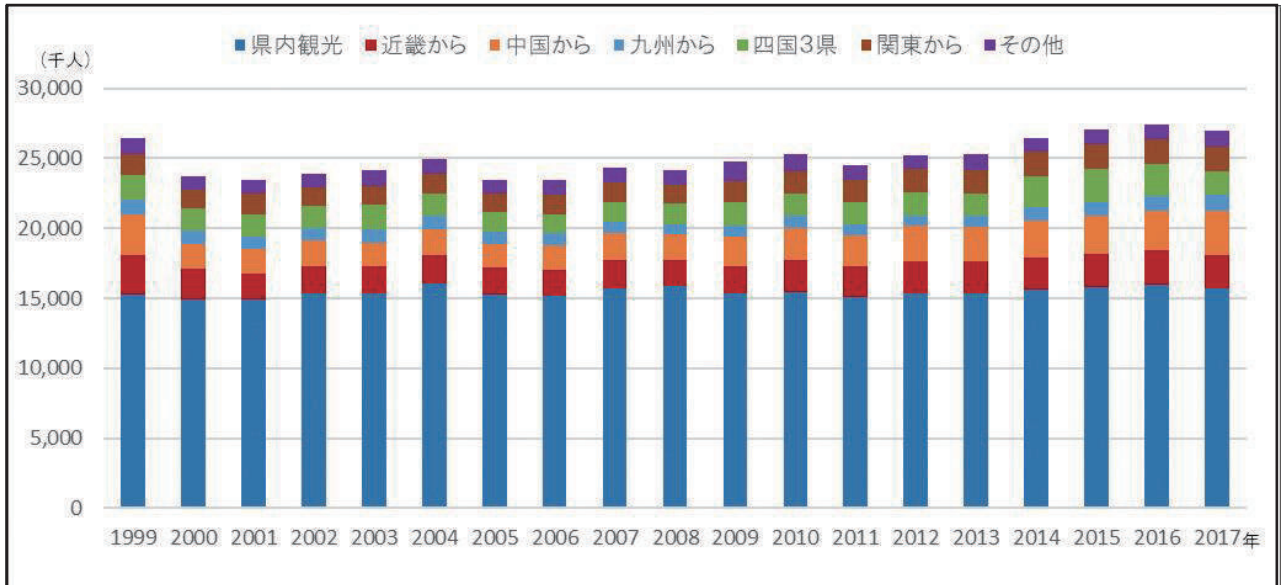
県名	国勢調査人口			平成28年推計人口	
	平成22年 (1,000人)	27年 (1,000人)	人口増減率 (平成22～27年) (%)	総人口 (1,000人)	人口増減率 (対前年) (人口1,000につき)
徳島	785	756	-3.8	750	-7.4
香川	996	976	-2.0	972	-4.3
愛媛	1,431	1,385	-3.2	1,375	-7.5
高知	764	728	-4.7	721	-10.0

出典：総務省 国勢調査

四国の中では愛媛の人口が一番多い状況だが人口は減少している。また、隣接する3県も今後人口減少が予想される。愛媛と隣接県において人口減少が予測される中で、集客を高めるためには、**県内からのリピート来訪の促進と県外からの来訪促進が必要**。



■愛媛県の観光客数



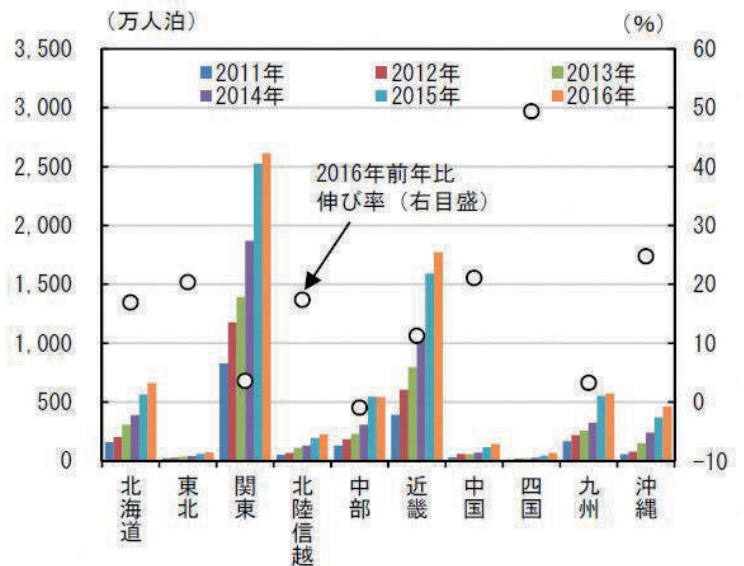
出典：平成 29 年 観光客数とその消費額（愛媛県）

2017 年の観光客総数は、延べ 26,999 千人と推定され、前年の 27,455 千人に比べて 456 千人の減少。このうち県外観光客は、延べ 11,328 千人で、前年に比べ 1.5% の減少。

■四国地方外国人宿泊者数

2016年度	訪日延宿泊者数	前年比
徳島	69,450	119.0%
香川	358,360	170.3%
愛媛	146,700	137.3%
高知	75,400	114.4%

■地方別外国人延べ宿泊者数



出典：(株)日本政策投資銀行 2016 年のインバウンドの動向

四国地方において、外国人宿泊者数は伸びている。しかしながら、全国地域別の宿泊者数を見ると、四国地域は他地域よりも宿泊者数が少なく、**インバウンドにおいて、まだ拡大の余地がある。**



(3) 周辺地域の特性

こどもの城の周辺には、西日本最大規模を誇るとベ動物園や、2万人を収容するスタジアムを含む県総合運動公園など、レジャー、スポーツ施設がほぼ隣接している。また、砥部焼(磁器)の町として有名で、地元では、伝統技術や文化の継承のための取組みが、積極的に行われており、こどもの城でも開園当初から継続している砥部焼を素材とした創作活動プログラムは人気が高い。

なお、県のほぼ中央に位置し、高知県までの主要道路である国道33号や高速道路のインターチェンジまでのアクセスが容易(いずれも10分程度でアクセス可能)であることから、松山市のベッドタウンとしての一面もある。

住民の思い

(1) アンケート調査

■調査概要

項目	内容
調査対象者	「中学3年生」全201人の内、欠席者などを除く188人 「満16歳以上の住民」2,000人を対象に無作為抽出
調査期間	平成28年7月1日(金)～平成28年7月22日(金)
調査方法	「中学3年生」：学校を通じての配付・回収 「満16歳以上の住民」：郵送による配布・回収
回収数	「中学3年生」188件中188件 100% 「満16歳以上の住民」2,000件中864件 43.2%

砥部町の昼夜人口 (2015年国勢調査)

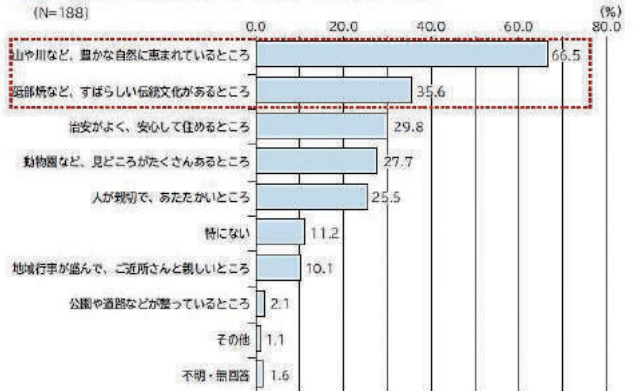


中学3年生の思い

① 魅力だと思うところ

本町の『すてきなところ』についてみると、「山や川など、豊かな自然に恵まれているところ」が66.5%と最も高く、次いで「砥部焼など、すばらしい伝統文化があるところ」が35.6%となっています。

■問：あなたが感じる砥部町の『すてきなところ』はどこですか。



(出典) 第2期砥部町総合計画

- ・近隣施設との間には、短期間で移動できる設備(橋)や広大で起伏のある両施設の敷地内を一体的かつ手軽にめぐることができる移動手段(両施設循環ロード・トレイン)が整備されていない。
- ・各施設の看板等で、隣接施設への案内ルートの表示が不十分であることに加え、休憩スポットが相対的に少なく、小さな子ども連れにとっては、徒歩移動が困難。
- ・施設の賑わいが地域に波及するための協働の仕組みが不十分(窯元との連携イベント等)
- ・車前提のアクセスである。
- ・公共交通機関はバスのみ(松山市駅～えひめこどもの城30分ごと)



(4) 児童厚生施設（県立大型児童館・児童遊園）の役割の多様化

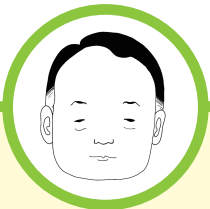
少子化の進行に加え、スマホや IT 機器、コンピュータゲーム、SNS の普及等に伴う、子どもの遊びの室内化や孤独化、バーチャル化が進む中、子どもや家族連れの興味・関心を引き付けるトピックスがなければ、中長期的に見ても、利用者の減少が見込まれる。

このような中、他県の大型児童館では、幼児や小学生を対象としたコンテンツ（遊具で遊ぶ、図画工作を楽しむ等）だけでなく、より上の年齢層（中高生）を対象とした学び（科学学習、自然体験、アート作品の創作、文化伝統の継承等）の要素を取り入れ、SNS 等への投稿の価値を高めるビジュアル要素に特化した観光資源としての取組みを強化して、来客数を伸ばす施設が増加。

（さめきこどもの国（香川県）、福井県児童科学館（福井県）、栃木県子ども総合科学館（栃木県）

また、地域の子どもの子育て支援に資する児童福祉施設としての児童館の更なる機能拡充を目指し、平成 30 年 10 月に「児童館ガイドライン」が改正され、大型児童館の機能・役割についても新たに明記された。

児童館ガイドラインの改正のポイント	
※従前の児童館ガイドラインの6項目25節・約5,500字から、9章構成、39項目・約14,700字に拡充するとともに、児童館職員が具体的に参考になるような内容及び平易な文章表現にした。	
<ul style="list-style-type: none"> 児童福祉法改正及び児童の権利に関する条約の精神にのっとり、子どもの意見の尊重、子どもの最善の利益の優先等について示した。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童館の職員に対し、配慮を必要とする子どもへの対応として、いじめや保護者の不適切な養育が疑われる場合等への適切な対応を求めた。
<ul style="list-style-type: none"> 児童福祉施設としての役割に基づいて、児童館の施設特性を新たに示し、①拠点性、②多機能性、③地域性の3点に整理した。 	<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援の実施について、乳幼児支援や中・高校生世代と乳幼児の触れ合い体験の取組の実施内容を追加した。
<ul style="list-style-type: none"> 子どもの理解を深めるため、発達段階に応じた留意点を示した。 	<ul style="list-style-type: none"> 大型児童館の機能・役割について新たに示した。
第9章 大型児童館の機能・役割【新設】	
1 基本機能	大型児童館は、固有の施設特性を有し、子どもの健全育成の象徴的な拠点施設である。他の機能を有する施設との併設等の場合にも、児童福祉施設である児童館の機能が十分に発揮されることが求められる。
2 県内児童館の連絡調整・支援	県内児童館の情報の把握や相互利用、運営等の指導、館長や児童厚生員等の研修、児童館活動の啓発、地域組織活動等の連絡調整等、大型児童館相互の連携や積極的な情報交換を行うこと。
3 広域的・専門的健全育成活動の展開	県内児童館等で活用できる各種遊びのプログラムを開発、普及を図ること。児童館のない地域等に出向き、遊びの提供等に努めること。優良な児童福祉文化財の保有や活用、児童福祉文化を高める舞台の鑑賞体験を行うこと。



鈴木委員（児童健全育成推進財団理事長）のコメント

子どもたちひとり一人が、自分の人生を主人公として生き、幸せと達成感を得るためには、実体験を通じた友達関係と教養の相互作用が大きく影響すると言われます。ヒトとして生まれた私たちは、様々な人と関わり合い、社会とつながって幸福を感じるものです。

実体験の重要性は、以前、視察したイタリアのフィレンツェ子ども博物館でも再認識しました。今でも印象深いのは、ルネサンス時代に建てられた建造物内で、1500年代後半に活躍したコジモ侯爵や建築家のバザーリなど、歴史上の人物に扮したスタッフが、来館者と一緒に館内を歩き、まるで今そこに生きて住んでいるかのように展示解説を行う博物館のガイドプログラムです。リアリティにあふれた彼らガイドに会うために博物館を訪れる子どもがいるほどで、日本の大型児童館でも、子どもたちが触れ合いと経験を通じて発見や感動ができる、ハンズオンのプログラムの充実が望まれます。

児童館で働く児童厚生員は、子どもたちの人生と社会をつなぐ、大事な橋渡しの役割を担っています。また、大型児童館には、子どもの健全育成の象徴的な拠点施設として、高い資質を持つスタッフの育成に加え、県内児童館の支援や広域的・専門的な活動の展開が求められます。

楽しいえひめこどもの城をつくるのが「子どもと親が幸せになる」ことにつながります。



(5) 豊かな緑の空間と抱える課題

こどもの城は、34.6ha の起伏のある丘陵地に豊かな森と緑の空間及び環境学習施設「えひめエコハウス」を有している。また、敷地内の緑は、県総合運動公園や砥部町の自然景観と一体となって、野鳥や昆虫の生息地となっている。

一方で、施設整備時に造成した敷地には、植栽したものや自生したものなど、多数の樹木やツタが成長し、枝葉が重なり合った場所も多く、敷地全体が暗い印象になるとともに、園内の道路や遊歩道を見通すことが難しく、また、イノシシ等の有害鳥獣が入り込む状況となっている。



(6) えひめこどもの城へのアクセス

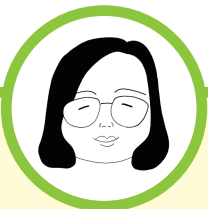
児童館（児童厚生施設）は、生活環境や状況に関わりなく、子どもが自由に来館等して過ごすことができる児童福祉施設であるにもかかわらず、こどもの城は、車や公共交通機関（バス）での来館を前提としており、ほとんどが、大人（保護者）の意思によって、来館するかしないかが決定する。

また、駐車場や停留所から園内の各施設までは高低差が大きく、屋外遊具の利用を含め、バリアフリー性や利便性の向上が課題となっている。

- ・子どもが安全に安心して過ごせる居場所としての環境整備が求められている。

〔 送迎など多様なニーズに対応できるサポート体制の強化
 中高生世代が利用できる環境整備（利用時間の変更、公共交通機関との連携等） 〕

- ・児童館のない地域等に出向き、児童館の機能役割の理解促進を図るとともに、遊びを提供し、県内全域の児童健全育成を推進する。（「動くこどもの城事業」）→長期休暇等を利用した来園者（家族連れや団体）の拡大や、学校の課外活動等と連携した利用プログラムの充実につなげる。
- ・屋外遊具をメインとした広大な敷地を有する施設であるため、施設内のバリアフリーやサポート体制が分かりにくく、来園者を誘引しにくい。



金子委員（愛媛大学教育学部教授）のコメント

久しぶりにバスでこどもの城に足を運びました。

市内からバスでの移動は、少し遠い感じですが、実際に行ってみれば、高台から見下ろす市街地の景色も素晴らしい。

身近な大学生に聞くと、ボランティア経験のある学生以外では関心が高いとは言えず、遠い場所のようです。

若者のもつ SNS での拡散力や PR の力は大きいので、時間をかけても行きたくなる「動機付け」がうまくいくと、集客力につながると感じます。



(7) 施設、遊具の老朽化

開園以来、設備や遊具等の大規模な更新や新規導入等を行っていないため、利用料収入は、屋外遊具等の老朽化による修繕期間の増加や一部廃止等により減少傾向にある。



◀ 開園から 20 年経過しており、園内の遊具は老朽化が進んでいる。子どもを遊ばせる親にとって「安心・安全」は第一であるため、適切な改修が必要。

- ・施設・設備の老朽化により、近年、利用者の安全確保のため立入りや使用を禁止・中止するケースが増加（水辺エリアのボードウォーク、森の広場の木製大型遊具等）するなど、施設の機能が低下。
- ・屋外遊具は、来園者数の約 4 割が利用するなど、依然、主要な集客要素となっており、今後、これら遊具の維持・更新が進まない場合、来園者の大幅な減少が危惧される。
- ・近年、敷地内に点在する大型遊具ではなく、イベントを中心に集客を図る傾向が強まったため、来園者の多くは、イベントが開催されるあいあい児童館や芝生広場、くわがたのステージ周辺等の一部エリアの利用に留まり、広大な敷地（3.5 万㎡）を十分に活かした利用がなされていない。



山本委員（NPO 法人子育てネットワークえひめ代表理事） のコメント

こどもが小さいときは、無料で思いっきり遊べる「森のひろば」がお気に入りでした。昆虫をテーマに遊具が充実していてこどもは大喜びでした。

こどもの城は広大な敷地の中に、年齢に応じて遊べるゾーンがあり魅力です。

あいあい児童館では職員さんがこどもたちに声かけをしてくれたり目が届きやすいエリアに、無料遊具がありとても利用しやすい。

これからも愛媛の子どもたちの思い出づくりを演出してほしい。



③実態調査

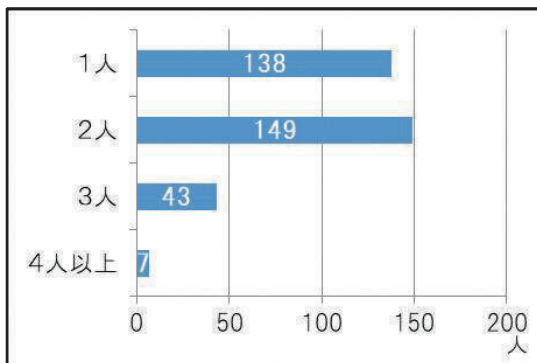
こどもの城の優位性や特長を把握し、集客力の向上に必要な改善事項を明らかにするため、実際に来園している方及び県内の観光客へのアンケート調査を行うとともに、近年影響力が拡大している利用者発信型の情報共有の動向や拡散性等を把握するため、WEB への投稿状況を調査した。

(1)利用者に対する調査

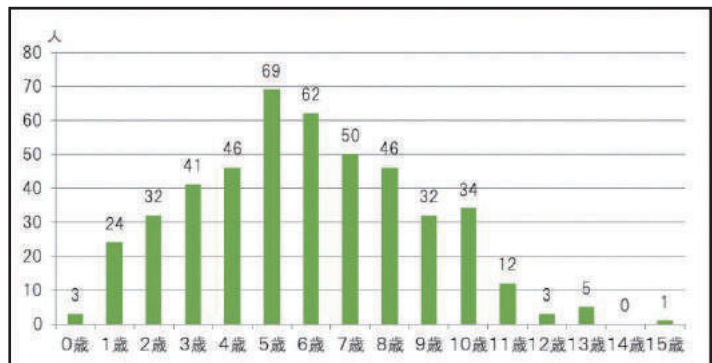
平成 30 年 6 月に、こどもの城の来園者に対し、「来園者の年齢」「来園する頻度」などについて、アンケート調査を行い、約 400 件の意見を集めた。

- 来園した子どもの 95%が 10 歳以下であり、小学校高学年以上の来園者が少ない。高学年以上の子どもたちが興味を持てる遊具整備のほか、体験活動やイベントの開催により、成長段階に応じた利用を促進することが求められる。
- 来園者の居住地は、県内が 346 人（91.0%）で、このうち 241 人が松山市である。遠くから足を運ぶ価値のある体験の提供が不足しているほか、県内全体を対象とする周知活動が必要となっている。
- こどもの城での滞在時間については、3～4 時間の回答が最も多く、身近な公園並みの利用時間にとどまる。
また、利用目的は、こどもの城ならではの屋外大型遊具がもっとも多く、自然とのふれあい、散歩が続くが、児童館の利用目的は多目的ホールやこどもタワーなど、一般の児童館と重なる部分が多い。
- こどもの城のイメージについては、「子どもたちが安全に遊べる」「創作体験ができる」「花や景色を楽しめる」などの項目については評価が高く、「色々や人と知り合いになれる」「大人だけで行っても楽しい」の評価は低い結果となった。

■来園した家族の子ども数

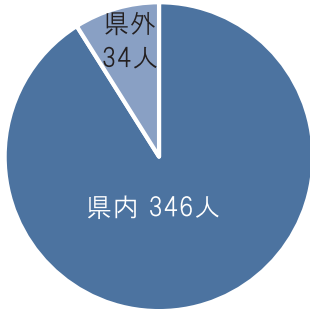


■来園した子供の年齢

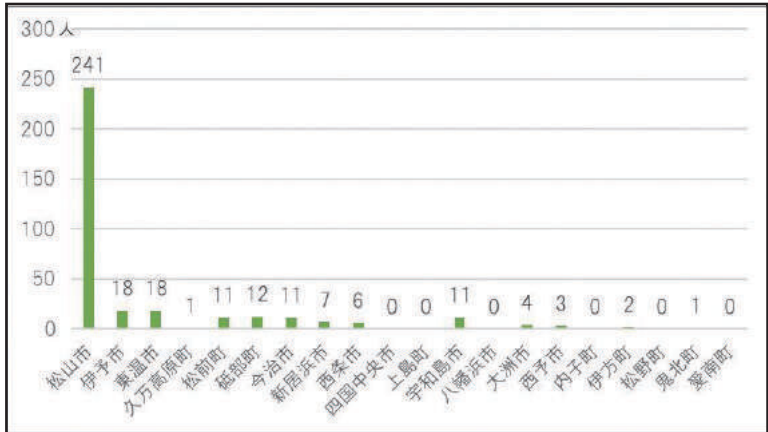




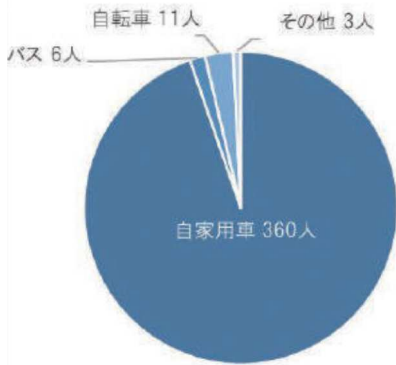
■来園者の居住地



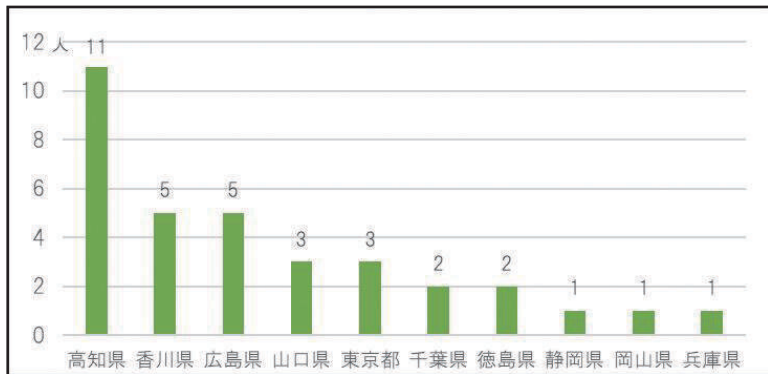
■県内来園者の居住地



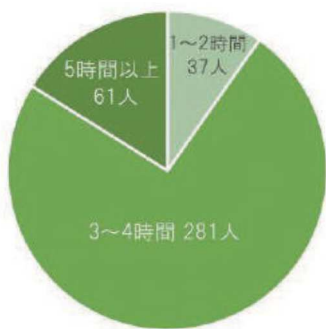
■こどもの城までの交通手段



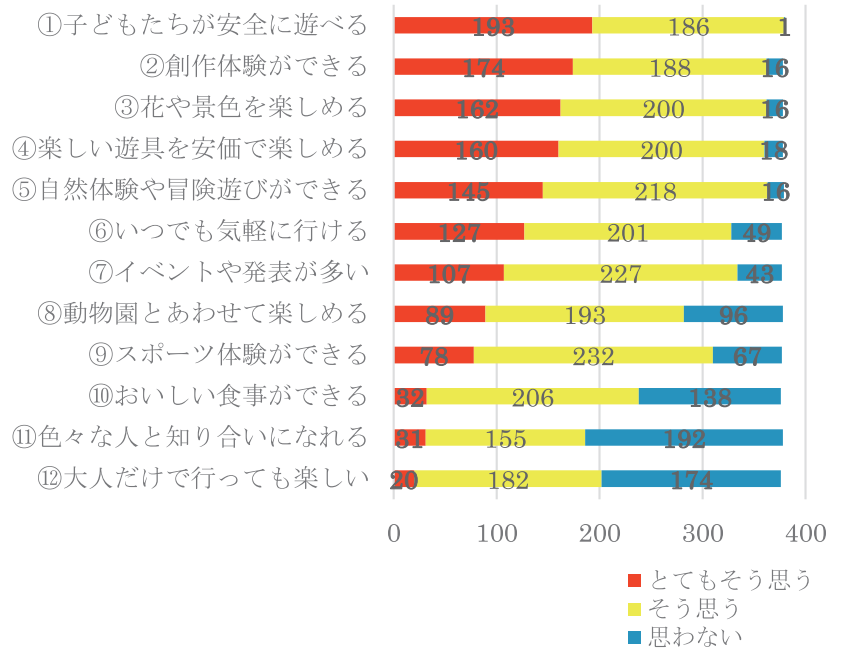
■来園者の居住地（県外）



■こどもの城での滞在時間

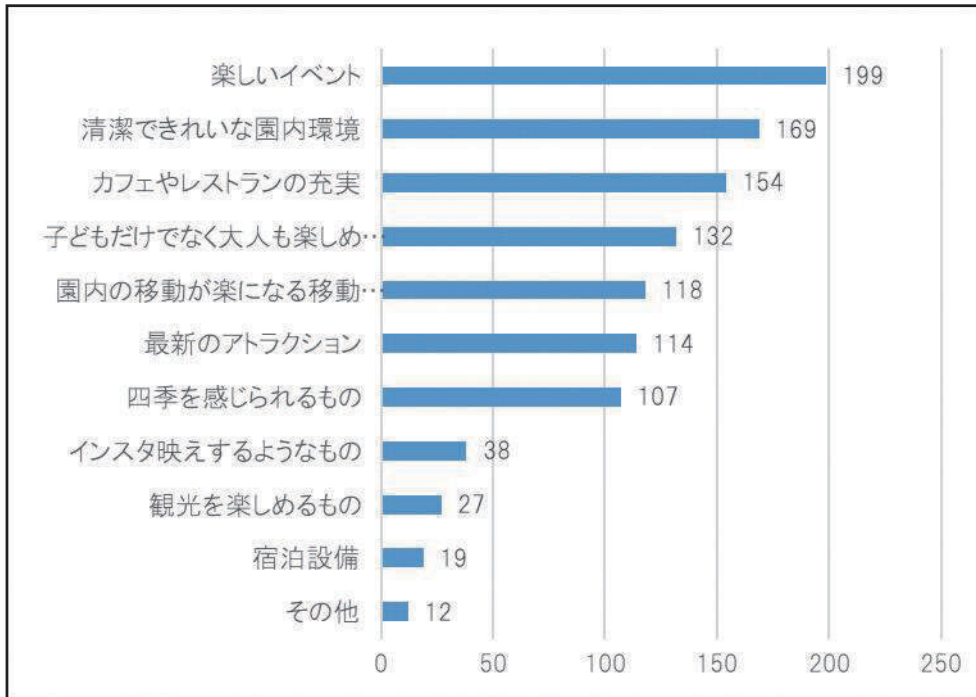


■こどもの城のイメージ



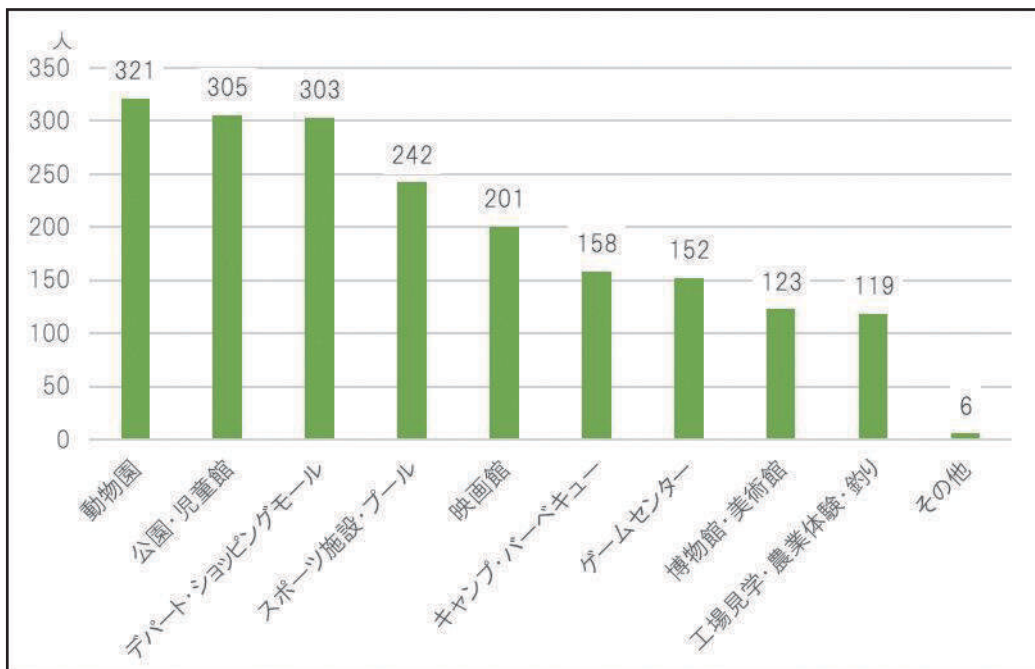


■こどもの城にあるといいもの



こどもの城のほかに行くレジャー施設については、「動物園」「公園・児童館」「デパート・ショッピングモール」の回答が多かった。

■こどもの城のほかに行くレジャー施設等



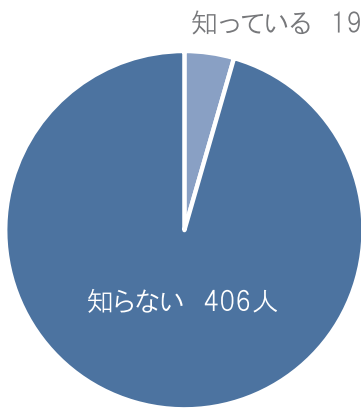


(2) 観光客に対する調査

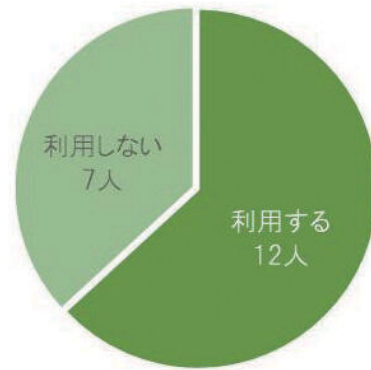
平成 30 年 6 月に、松山城への観光客に対し、「こどもの城の認知度」などについて、アンケート調査を行い、約 400 件の意見を集めた。

- ◇こどもの城の認知度をたずねたところ、大部分（95.5%）が「知らない」と回答しており、県外へのPRが不足している。
- ◇こどもの城ととべ動物園がセットになった日帰りツアーがあったら利用するかたずねたところ、「利用する」が 12 名（63.1%）となり、複合的な視点で魅力の向上を図る必要がある。

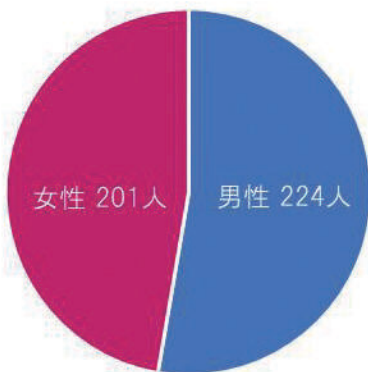
■こどもの城の認知度



■とべ動物園とこどもの城をセットにしたツアーの利用意向



■回答者の性別



前野委員（華道家） のコメント

県外からでも訪れたい施設になると、県内の人や近隣の人
も期待値が上がる。
地域全体に人を呼び込める施設となることで、まちのシン
ボルとなる。
適正な価格設定等により、きちんと収益を上げ、継続的に
レベルアップが図れる運営体制の構築が重要。

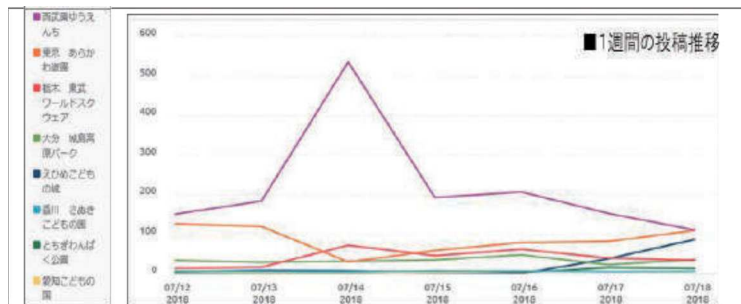


(3) WEB への投稿状況

近年のレジャーや観光の動向への影響力が増加している WEB への投稿状況を比較するため、年間約 30 万人～ 80 万人が訪れているレジャー・集客施設（水族館・動物園等を除く）を抽出し、各施設、施設名の入った投稿を収集した。

- ◇WEB 投稿に関する年間推計を他の施設と比較したところ、えひめこどもの城は、他の公営施設よりも投稿率（高校生以上の入園者数に対する投稿数）が低い。
- ◇投稿ツールでは、ブログでの投稿割合が多めであるが、口コミによる集客につなげるには、“いいね” やリツイート機能があり、気軽につぶやきや写真を投稿できる Twitter や instagram での投稿を増加させる必要がある。
- ◇近年は、SNS による口コミが消費者評価としての影響力を持ち、特に子育て世代が発信する当事者視点の情報は、信用性が高いと受け止められているため、有効に活用する必要がある。

施設名	設置	所在都道府県	入場料	2015年度入場者数	WEB投稿数 (7/12-18の1週間)	年間投稿推測数	投稿率
とちぎわんぱく公園	公	栃木県	無料	807,668	38	1,981	0.245%
さぬきこどもの国	公	香川県	無料	692,318	36	1,877	0.271%
えひめこどもの城	公	愛媛県	無料	408,680	143	321 ※実績値	0.079%
愛知こどもの国	公	愛知県	無料	309,260	22	1,147	0.371%
あらかわ遊園	公	東京都	有料(大人200円、子ども100円)	391,201	602	31,390	8.024%
西武園ゆうえんち	民	埼玉県	有料(大人1,200円、子ども600円)	591,948	1,528	79,674	13.460%
城島高原パーク	民	大分県	有料(大人1,500円、子ども600円)	487,126	230	11,993	2.462%
東武ワールドスクウェア	民	栃木県	有料(大人2,800円、子ども1,400円)	407,611	278	14,496	3.556%



集計期間：2018年7月12日～2018年7月18日
Oracle Social Crowd より集計。
入場者数出典：レジャー&レクパーク総覧 2017
※投稿率=年間 WEB 投稿数 ÷ 入場者数
(年齢区別はしていない)
※運営側による投稿も含まれるため、投稿率は来園者の投稿率とは一致しない。

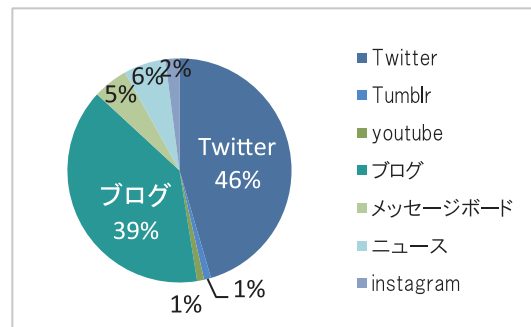
WEB での年間投稿

“えひめこどもの城” が含まれる投稿を集計。投稿は年間で 321 件であった。

■1 年間の投稿推移



■投稿ツールの割合



集計期間：2017年6月27日～2018年6月27日
Oracle Social Crowd より集計。
※運営側による投稿も含まれる



旅行口コミサイトの評価

えひめこどもの城のトリップアドバイザー口コミ抜粋

ポジティブ

とても良いと評価した中から、役に立ったと評価された数が多い口コミを抜粋

オススメの遊び場 101 名が役に立ったと評価

入場無料で体験工房での製作も安く子供連れにはオススメします。夏は水遊びも出来るので水着を持って行くと良いです。食堂も有りますがお弁当を持参で外で食べるのも良いです。

広い公園 53 名が役に立ったと評価

色々な体験コースがあり、お皿をビーズ等でかざり、それを焼いてもらいました。普通の焼き物でなく、ビーズがとけて素晴らしい色あいになりました。毎月、色々なもの乗り物もあり、一日楽しめます。

ネガティブ

悪いと評価した口コミ

無料ですが、複数回となると微妙です。 77 名が役に立ったと評価

動いて無い停止機器が多数です。初めての方は、どういったら良いかと園内をかなり歩きます。子供達をほおっておけるのは良いです。コスパはマル。

一番評価数が多かった口コミ

子供はボブスレーにハマりました。 869 名が役に立ったと評価

入場無料ですが、てんとう虫のモノレール、ボブスレーなど大人 1 回 300 円、子供 100 円とそれなりに家族全員で満喫しようと思うといつの間にか結構使っている感じです… 1 番人気? のボブスレーをしようと思うと、モノレールかプチ登山です。休みの日は 1 時間 1 回出来ればいい方でしょう… 山の裏の辺りにある大きなアスレチックは楽しそうでした！



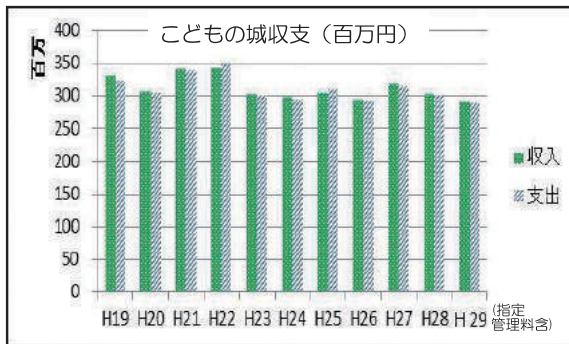
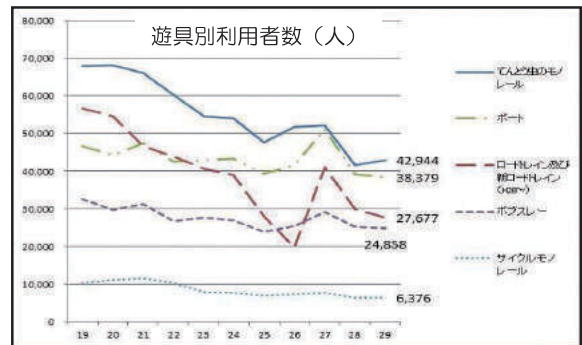
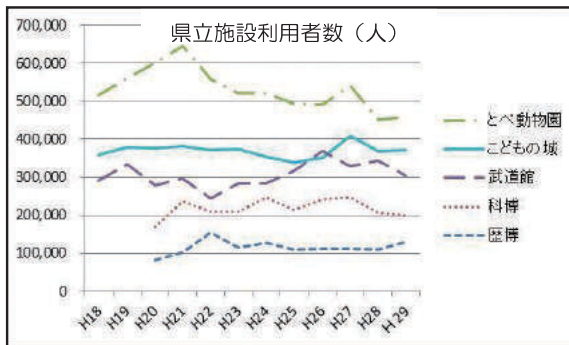
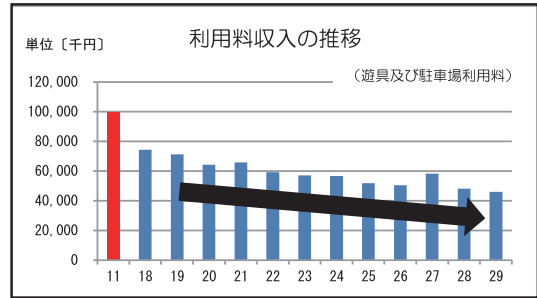
■入園者数の推移

年度	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	累計
入園者数(人)	374,268	458,960	377,340	371,760	345,710	358,750	308,710	306,540	357,730	379,030	376,110	
年度	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30 H31.1月末		
入園者数(人)	380,294	370,220	374,700	354,630	338,250	351,670	408,090	368,590	372,296	294,940		

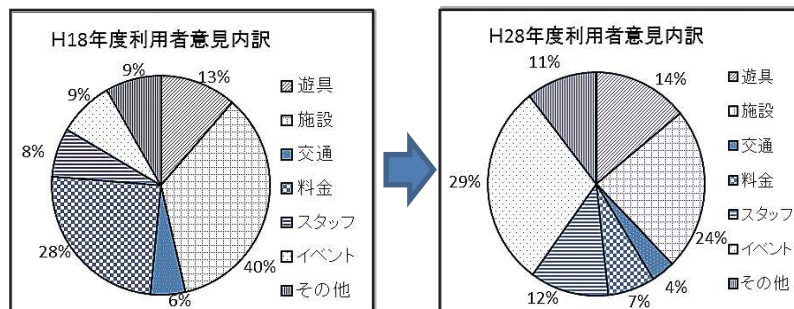
国内大型児童館来園者数（H28年度）

順位	施設	来園者数	開園	面積 (㎡)	備考
1位	さぬきこどもの国	66万人	H7	240,000	スペースシアター併設
2位	福井県児童科学館	63万人	H11	7,075 (延床)	
3位	栃木県子ども総合科学館	58万人	S63	13,000 (延床)	
4位	愛知県児童総合センター	39万人	H8	7,600 (延床)	H17 愛地球博開催
5位	えひめこどもの城	37万人	H10	350,000	エコハウス併設

※千人以下四捨五入。施設により集計方法は異なる。



こどもの城利用者意見割合





第3章：魅力向上推進プラン(魅力向上戦略)

①えひめこどもの城の将来像

だれもが^{えがお}“愛顔”になれる 「冒険」と「やすらぎ」のシンボルパーク

えひめこどもの城は、児童厚生施設ではありますが、動物園や総合運動公園に隣接するという立地環境から、幅広い年齢の方が利用することが想定できる大規模公園です。そして、愛媛県のほぼ真ん中に位置する広大な緑の空間（森）の中には、ランドマークであるあいあい児童館が設置されており、その西洋風の城を模したたすまいは、県内の子どもたちの夢と希望のシンボルです。

しかしながら、少子化の進行や若者が抱える経済的な不安、遊びの室内化や孤独化など、こどもの城が開園した20年前と比べると、子どもたちや子どもを支える大人たちを取り巻く環境は少しずつ様変わりし、子どもが真ん中の児童厚生施設についても、求められる役割が変化しています。

そこで、多角的にこどもの城の将来像について思いを巡らせた結果、子どもたち一人ひとりが主人公になり、思い描く希望の実現に向けて前に進む勇気につながる「冒険（挑戦）」と、大きく息を吸って自分自身を見つめる「やすらぎ」の空間を提供できることが、真の夢と希望のシンボルの役目だと、改めて強く感じたところです。

開園から20年の節目を迎えた今、これから先も、子どもを中心に多くの方に親しまれる“愛顔（えがお）”あふれる施設であるために、様々な方の多様なニーズに応えることができるふるさとの「マルチパーク」として、県民の誰もが誇りと愛着を持って利用できる施設、そしてみんなで育んでいく施設となるために有効と考える取組みを、「えひめこどもの城魅力向上戦略～『To-beの森』プロジェクト提案報告書～」として取りまとめました。

私たちは、少し先を歩く大人として、えひめこどもの城で子どもたちと愛顔（えがお）あふれる未来がつながることを願っています。

えひめこどもの城魅力向上検討委員会 委員一同



◀「だれもが“愛顔”になれる「冒険」と「やすらぎ」のシンボルパーク」イメージ



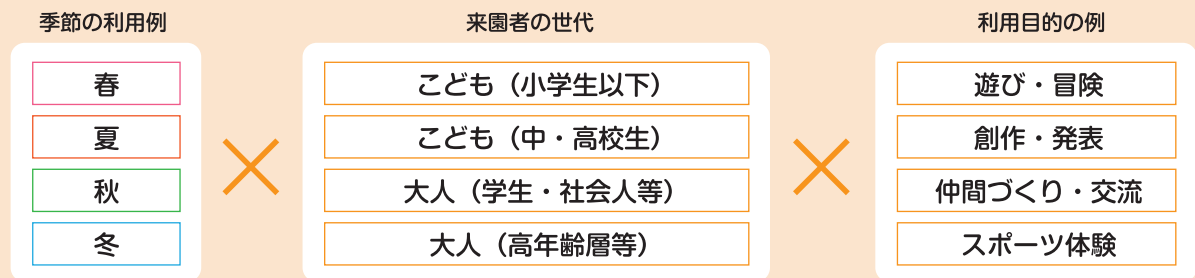
②将来像の実現に向けた基本的考え方(行動目標)

えひめこどもの城の将来像の実現に向けて「ひと」「まち」「もり」「しくみ」の4つの観点に基づく基本的な考え方を定め、具体的なアクションの方向性を示します。

①ひと～ hito ～

『子どもから高齢者まで幅広い世代の来園者が愛顔になれる施設づくり』

それぞれが、楽しく快適に過ごせる場所と時間を提供し、多様な利用ニーズに対応します。



②まち～ machi ～

『動物園や地元(砥部町)と一体になった愛顔あふれる施設づくり』

動物園などの周辺の施設やイベント(祭り等年中行事)、産業(営農等)と連携を図りながら、エリア全体で魅力ある空間づくりを進めることで、施設やまちの価値を高めます。

③もり～ mori ～

『中四国最大級の敷地(もり)を活かした愛顔育む施設づくり』

豊かな自然と敷地の高低差を活かしたアスレチックゾーンを構築し、子どもたちを冒険の世界に誘い、全ての県民の健康増進エリアとして活用します。

④しくみ～ shikumi ～

『様々な担い手により愛顔をつなぐ施設づくり』

幅広い世代の多様な立場にある人が集い、愛媛の未来につながるアイデアで施設運営を進め、魅力ある施設の実現を目指します。

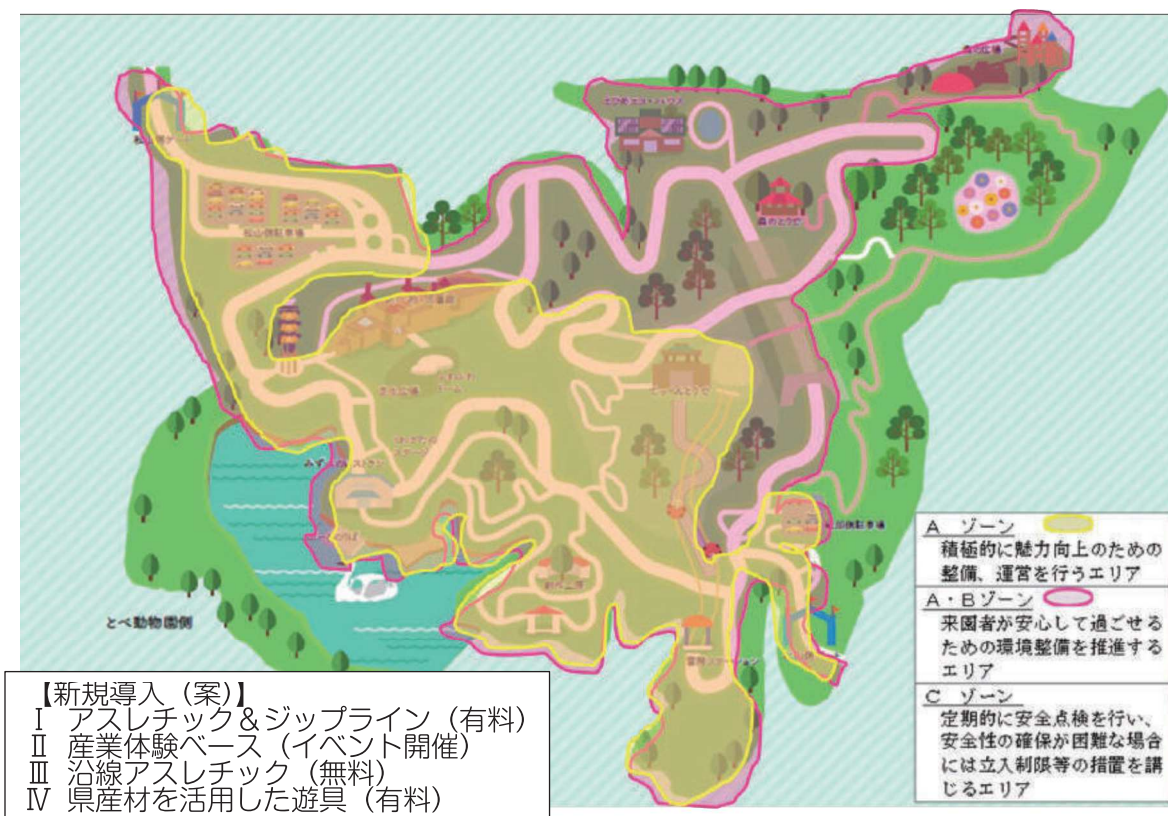


③将来像の実現に向けたハード整備計画

将来像の実現に向けて、効率的に安全を確保できる敷地管理体制に見直すほか、敷地内の高低差を活かした新たな屋外大型遊具の整備や安全に遊べる施設維持のための計画的な修繕に取り組みます。

(1) 敷地管理体制

利用状況に応じて敷地管理体制を区分し、積極的管理をAゾーンに集約して全体の費用対効果を上げる。総面積 34.6 ha [Bゾーン 20.8 ha (うちAゾーン 17.4ha)、Cゾーン 13.8ha]



(2) 大型遊具(コンテンツ) 導入方針等

入場料金が無料であることが誘客の大きな要因であることから、入園料無料を維持しつつ、有料遊具の新たな設置により収益性を高める。

- ①地域住民と観光客、子どもと大人など、ターゲットとする対象別の周遊コースを想定し、誘客要素の必要な個所に新たな遊具を設置。
- ②“動物園にも行ける児童館”としての特性を具現化する。
- ③新たに導入するコンテンツの運営に必要な経費(人件費、維持修繕費)は、遊具利用収入で賄う。



ターゲットの設定及び想定する周遊コース

ターゲットの設定

身近な施設としてえひめこどもの城を利用している地域住民や現在の主な利用者層である子ども連れ家族層のほか、向上の余地が大きいターゲット層を加えて設定

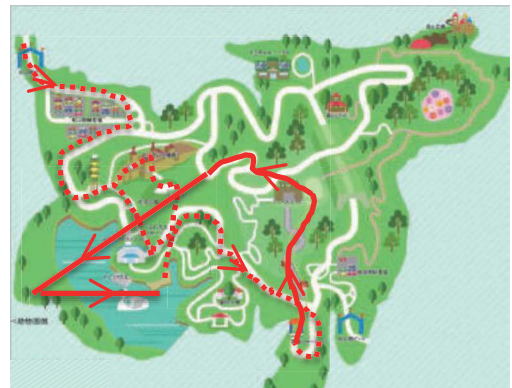
- ①初めての来園者（県外を含む観光客）、めったにこない中高生（夏休み等）
- ②リピーター（主に県内、近郊の小学生がメイン）
- ③家族連れ（比較的低年齢（未就学児）を伴う家族連れ）
- ④大人（カップルや高齢者、女性グループ）

周遊コース（案）

①家族連れの1日コース（遊園地気分を味わえる）

所要時間 約5時間（11：00～16：00）
 料金目安 駐車場：300円 大人：2,100円／人
 小中学生：1,000円／人（飲食費を除く。）

- A 謎解き大型迷路
- B てんとう虫のモノレール
- C てっぺんとりで 〔軽食〕
- D みんなの森
- E ジップライン（行き）
動物園 動物園で遊ぶ
- F ジップライン（帰り）
こどもの城
〔ふわふわドーム、芝生広場、あいあい児童館、レストラン〕



徒歩： 遊具： ——

②小さな子どもと半日コース

所要時間 約2～3時間（11：00～14：00）
 料金目安 駐車場：300円 大人：600円／人（飲食費を除く。）
 幼児：400円／人（ワ-クジョ-プ等体験料）

- A あいあい児童館
〔デジタルアート、ワークショップ、多目的ホール等〕
- B 芝生広場
〔ふわふわドーム、芝生広場、じゃぶじゃぶ水路〕
- C 遊具あそび
〔てんとう虫のモノレール（往復）、コシロちゃんバス or
てんとう虫+ボブスレー、ロードトレイン〕



徒歩： 遊具： ——

③わんぱくキッズの半日コース

所要時間 約2～3時間（13：30～16：30）
 料金目安 駐車場：0円 小中学生：200～500円／人（飲食費を除く。）

- A あいあい児童館
〔デジタルアート、ワークショップ、多目的ホール等〕
- B 芝生広場
〔ふわふわドーム、芝生広場、じゃぶじゃぶ水路〕
- C ボート or みんなの森



徒歩： 遊具： ——



④カップル・観光コース

所要時間 約3～4時間（11：00～15：00）
 料金目安 駐車場：300円
 大人：2,600円/人（飲食費を除く。）

- A 謎解き大型迷路
- B てんとう虫のモノレール
- C てっぺんとりでで〔軽食〕
- D みんなの森
- E ジップライン（行き）
動物園 動物園で遊ぶ
- F ジップライン（帰り）
- G ボート



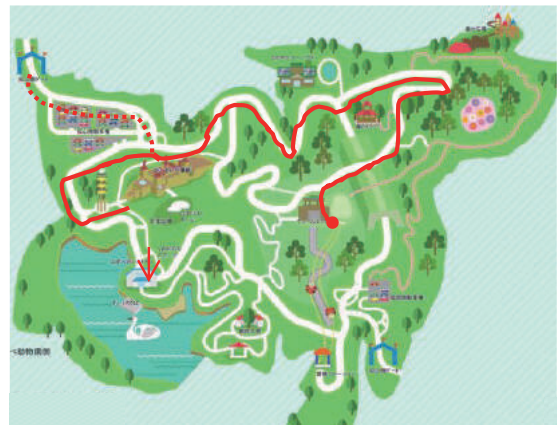
徒歩： 遊具： ———

⑤ほのぼの大人コース

・ お買いもの又は工房サークルと食事

所要時間 約2～3時間（11：00～14：00）
 料金目安 駐車場：300円
 大人：600円/人（買物・飲食費を除く。）

- A コシロちゃんバス
- B てっぺんとりで
- C コシロちゃんバス
- D レストラン

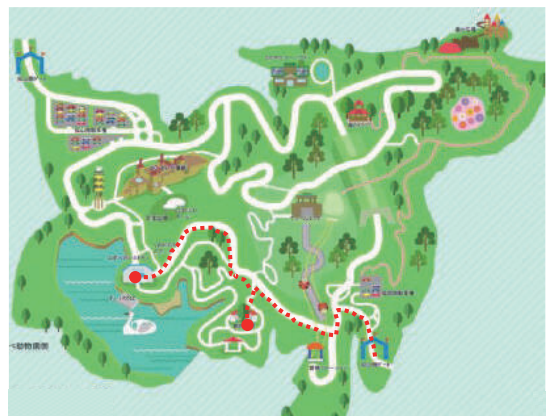


徒歩： 遊具： ———

・ 工房サークルと食事

所要時間 約1～2時間（10：00～12：00）
 料金目安 駐車場：300円
 大人：600円/人
 （サークル会費・飲食費を除く。）

- A 創作工房
- B 花の丘・ハーブ園（散策）
- C レストラン



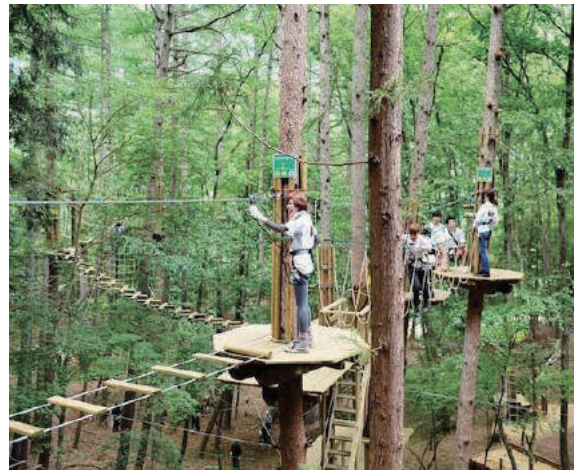


費用対効果について（株タイトー調べ）

魅力的なアトラクション（遊具）は来園者の満足度を高め、再来訪をしていただくために欠かせません。そのためには投資したアトラクションで利益を創出し、施設の運営や次の投資（アトラクションの新設やリニューアル）を定期的の実施する事が重要です。アスレチック&ジップラインは通常のテーマパークにあるような大型遊具と違い、えひめこどもの城の自然の地形を活かすことができ、イニシャルコストが比較的安く、またランニングコストも低いいため利益率が高いのが特徴です。



ジップライン



アスレチック

※アトラクション導入事例（年間平均）

	静岡県富士	福岡県糸島市	埼玉県秩父市
入場者数（人）	24,000	37,000	30,000
客単価（円）	3,000	3,000	3,000
売上（円）	72,000,000	111,000,000	90,000,000
初期投資（円）	120,000,000	120,000,000	120,000,000
ランニング費（円）	20,000,000	20,000,000	20,000,000
月額利益（円）	4,333,333	7,583,333	5,833,333
CFによる回収期	2年4か月	1年4か月	1年9か月

※CF:キャッシュフロー ※データは概算となります

遊園地などにある大型遊具費の平均は3億～10億と高額なため一般的に長期回収となります。アスレチック&ジップラインは短期で回収できる可能性が高く利益化できるため効率的な経営が期待できます。



(3) 既存遊具・設備整備（修繕等）方針

- 児童館・児童遊園の**安全利用に必要な修繕**を実施する。
- 児童厚生施設として**安心して安価で遊べる遊具**も整備する。
- メンテナンス費用を踏まえて収支を見直し、**必要性・採算性の高いものを中心に全体の周遊性との連動を踏まえて再構成**する。

区分	【継続】		【休止・廃止等】
判断基準	必要性が高い	採算性が高い	採算性が低い
整備の方向性	施設機能の維持及び安全の確保を図る	安全の確保に加え、収益の維持・向上を図る	運航休止・廃止、立入制限、用途変更等
遊具・設備	あいあい児童館 創作工房 芝生広場 森の広場	てんとう虫のモノレール ボブスレー ロードトレイン ボート レストラン	その他の遊具・設備は、必要性・採算性を考慮して整備方法等を検討。

○施設修繕の優先順位

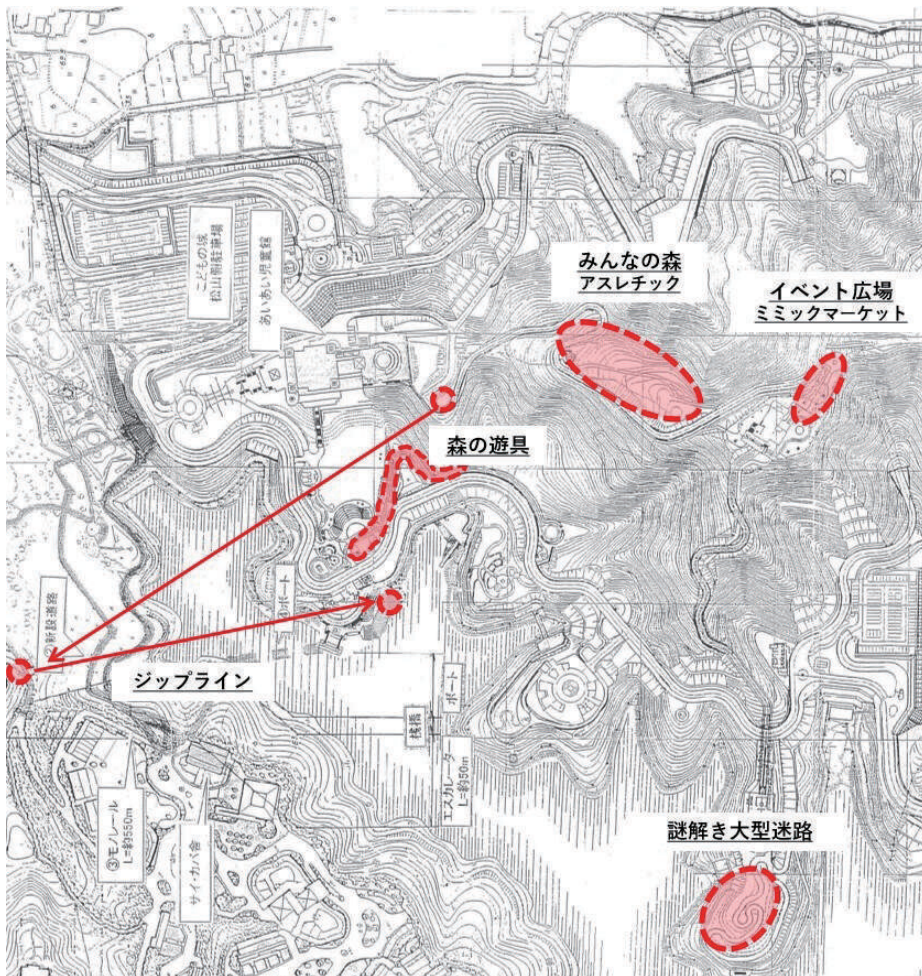
No.	修繕箇所	内容
1	防犯カメラ	・カメラ機器の更新
2	非常予備発電装置	・蓄電池交換
3	汚水処理施設	・汚水処理ろ過設備の更新
4	消防用設備	・自動火災報知設備、非常放送設備更新
5	空調設備	・ユニットのオーバーホール等交換
6	移動観覧席	・リモートスイッチ、制御機器の更新
7	てんとう虫のモノレール	・本体、駆動部、電気設備の更新
8	ボブスレー	・滑走路更新



鳥瞰イメージ



位置図





④具体的な行動計画（アクションプラン）

(1) 魅力づくりのための4つの視点

こどもの城の現状を踏まえ、次の4つの視点から魅力づくりを推進します。

魅力向上のための4つの視点

① リブランディング

豊かに広がる自然やアウトドアを核にこどもの城の世界観を統一し、イメージや印象を向上させ、良い思い出をつくる場所としてブランディングする。

② 新しい遊びの開拓

こどもの城のシンボルである児童館（建物）と自然（アウトドア）を活用し、「アクティビティ」・「レクリエーション」・「アドベンチャー」をテーマに新しい遊びを開拓する。

③ 空間（エリア）連携

隣接する施設、砥部町と連携し、回遊の促進やリピート率の向上により、エリア全体としての魅力を創出する。

④ 運営面での取り組み

施設全体の整備や管理の効率化を図る。
企業協賛イベントやボランティア活動・スポンサー制度等、民間活力を導入し、イベント開催や遊びプログラムを活性化する。

(2) 取組みの展開例

(1) で掲げた「魅力づくりのための4つの視点」のもと、次に示す「期待する効果」の実現に向け、各取組みを展開していきます。

特に、戦略的に推進していく必要のある取組みについては、重点プロジェクトとして位置づけて、進捗状況を把握することで、着実な魅力向上を進めていきます。

効果 その①

ふるさとのシンボルであり、子どもたちの自慢の施設となる

効果 その②

新たな観光拠点となり、近隣施設（とべ動物園等）とともに集客力が向上する

効果 その③

エリア全体の観光・交流人口を拡大し、地域が活性化する

効果 その④

多様な主体が持つ特性を生かし、オール愛媛で子どもや子育てを支援する機運を醸成する



ふるさとのシンボルであり、子どもたちの自慢の施設となる

遊びから+(プラス) 学び・体験へ (中高生もターゲットとした集客促進)
～様々なイベントや活動を通して、かけがえのない「時間 (とき)」をつなぐ～

①明確な施設テーマの共有

- ◆「冒険」と「やすらぎ」をテーマに、施設全体のブランディングを進める。
- ◆まちと施設を一体的に楽しめるよう、周辺道路と各施設の案内板のデザインに統一感を持たせるなどの取組みを進める。
- ◆県や指定管理者による情報発信に加え、利用者による情報発信を生み出すようなICTなどの新たな仕掛けを作る。【重点】

②魅力ある遊具の設置

- ◆中高生に人気の高い大型複合遊具を設置する。【重点】
- ◆県産材を活用したオリジナルの大型遊具を設置する。【重点】



③魅力あるイベントの誘致

- ◆近隣施設や指定管理者と連携を図り、えひめこどもの城ならではのロケーションや敷地を活かした多様なイベントを実施する。(スポーツイベントや野外ライブ等)
- ◆中高生や大人も参加できるサークル、体験プログラムを実施する。(陶芸 (創作工房)、染め物、料理、花植え (花の丘、ハーブ園等)、体力増進 等)
- ◆中高生がイベントの企画・運営に参画できる仕組みの構築を図る。
- ◆大型イベント開催時は、公共交通機関等と連携し、来園手段を拡充する。
- ◆休憩コーナーや撮影スポット、飲食スペースを拡充する。
- ◆エコハウスと連携し、環境教育の充実等を図っていく。



④アート活動の拠点づくり (創作活動、伝統の継承)

- ◆学校区を超えた自発的な 創作活動グループを育成する。
- ◆「えひめ愛顔の子ども芸術祭」の開催を通じ、子どもアートの拠点として全国に発信する。【重点】
- ◆文化伝統の継承を目的としたプログラムを実施する。

⑤いつでも安心して安全に利用できる場所の提供

- ◆学校等と連携し、開園時間や公共交通機関の情報の周知を図り、平日の利用も促進する。
- ◆子どもたちの生活実態等を把握し、ニーズに対応する。
(開園時間の見直し、学習支援等居場所づくり、体力増進、クラブ活動等)
- ◆施設の利用ルールの見直しを行い、使いやすさにつなげる。
- ◆防犯体制を強化する。(夜間照明、防犯カメラ、放送設備、緊急通報システム等)



新しい観光拠点となり、 近隣施設（とべ動物園等）とともに集客力が向上する

点的利用から面的利用へ（起伏に富んだ自然を活かした集客促進）
単独から複合へ（とべ動物園との連携強化による集客促進）
～ほかにはない複合的な「体験ゾーン」を形成～

①とべ動物園との移動手段

- ◆移動そのものがアトラクションになる屋外遊具（ジップライン、バス等）の設置を進める。【重点】
- ◆エリア内で利用可能な共通クーポン券の発行等により、周遊特典を拡充する。
- ◆とべ動物園とこどもの城をつなぐ橋の設置について継続して検討する。



②魅力ある遊具の設置

- ◆共通する年齢層である小学校低学年までの子どもたちや家族連れに人気の高い大型複合遊具を設置する。
【重点】
- ◆子ども広場（県総合運動公園）や遊歩道内の休憩スポットの遊具・施設の計画的な改修を進める。
- ◆子どもだけで安全に遊べるスペースを確保する。（無料かつ安全安心な遊び空間）

③魅力あるイベントの誘致

- ◆タイアップイベントの実施
 - ・移動動物園 + 動物とのふれあいイベント
 - ・動物をテーマにした屋外造形物の創作（こどもの城）・展示（動物園）
 - ・夜間コラボイベント（イルミネーションと夜の動物園、グランピング）
 - ・両施設間を対象エリアとしたスタンプラリー
- ◆森や池でつながる施設間の空間としての魅力を活かしたイベントの誘致を図る。
- ◆四季を感じることができるよう、季節ごとに花が咲く空間の整備を進める。
- ◆統一したコンセプトのもと、樹木のライトアップなどを行う。



エリア全体の観光・交流人口を拡大し、地域が活性化する

子どもから＋（プラス）家族・大人へ（大人の視点を加えた集客促進）

昼中心から＋（プラス）夕方・夜間へ

（遊びや学びの時間帯の変化を踏まえた集客促進）

～子どもが主役になって楽しむ場所に、大人も憩い・楽しむことができる場としての機能や夕方・夜間特有の魅力（星空、ライトアップ）を活用したアクティビティを付加～

①交流拠点の設置

- ◆敷地の中心に位置するてっぺんとりで（標高 170m）のロケーションを活かし、園内周遊のハブスペースとして、飲食イベントや周遊イベントなどを誘致し、施設利用者と地域の居住者、就業者、観光客が憩い交流できるにぎわいの場を創出する。【重点】
- ◆えひめこどもの城で民間事業者が新事業・新商品の開発・テスト販売等の場に活用できるようにし、地域の魅力を伝える交流拠点として提供する。



②来園しやすさの向上

- ◆多彩な自然空間を連動させ、施設内の回遊性を高める。
- ◆周遊コース別の適切な案内表示を行う。【重点】
- ◆夏場の暑さ対策の実施。
- ◆市街地からのアクセス改善を検討する。（シャトルバスの運行等）
- ◆施設内のユニバーサルデザイン化を推進する。
- ◆周辺施設と連携・協力したサービスや連続性、一体感の創出により、来園しやすさの向上を図る。
- ◆県外からの観光客が来園しやすくなるよう、エリア全体を観光ルートとする旅行企画の開発、旅行会社及びメディア等への情報発信の強化に取り組む。
- ◆授乳やオムツ交換がしやすい設備を配置する。
- ◆食事の時間を楽しめるよう、県産材を活用した調度や遊具を配置した新しい食の空間を創出して木育を推進し、滞在時間の伸長を図る。【重点】
- ◆分かりやすいWi-Fiエリアの表示および増設を推進する。



伊藤委員（えひめイクメンメンターネットワーク会長）のコメント

毎日子育てに奮闘している親は、日常が忙しければ忙しいほど、休日にどこかに出かけるちょっとした時間の確保すら大変。でも、普段子どもと過ごす時間が少ないと、少しでも一緒にいたいし、子どもを楽しませたい。

そんなときに、安心して小さな子どもだけでも参加できるプログラムがあると、親が子育てから解放され、「個」としてリラックスできる・・・。

大人でも過ごせる魅力的な空間づくりに合わせて、少しだけ子離れ、親離れの視点で、ほかにはない子どもだけが参加できるプログラムが充実していくことを期待している。



③特別（非日常）を意識した上質な空間の提供

- ◆ターゲットを大人に絞った、本格的な料理やイベント、リラクゼーションの提供を意識したイベントの開催
- ◆見ごろの花などの情報の周知方法を工夫し、四季を通じた植栽「花の名所」を創出する。
- ◆地域に開かれた緑豊かな施設として、周辺エリアとの連続性や一体感を強化し、四季を通して楽しめる花木の植栽や美観の向上により、憩いから健康づくりまで様々な利用を促進する。
- ◆写真投稿に適した景観の整備や話題性の高い撮影スポットの創出。
- ◆野外キャンプ等宿泊イベントの開催や星座観察会の開催による、利用者層の拡大。
(町市外や県外からの参加者の呼び込み強化)【重点】



前野委員(華道家)のコメント

花の名所には、人が集まってくる。

愛媛の「愛」と「オレンジ」色をテーマに、森の命や躍動を感じることができる名所となるよう、植栽を工夫し、美観を整備していくことが効果的と考える。

④地域住民の利用促進

- ◆樹木・竹林の取扱基準を定め、園内の主要動線や遊歩道等の見通しの確保や危険木の伐採、適正な樹種の管理を行う。
- ◆四季の移り変わりや小鳥の観察等を楽しみながら散策できる、樹木や植栽、遊歩道等の管理方法を検討し、地域の「庭」としての機能を高める。



上田委員(砥部町副町長)のコメント

地域住民は、通谷池を周遊する歩道や園内の道路を、普段の散歩コースとして利用している。四季を通じて、野鳥や花を観察できるちょっとした穴場的な場所でもある。自然の景観を活かしながら、安全性を確保する工夫が必要。



多様な主体が持つ特性を活かし、 オール愛媛で子どもや子育てを応援する機運を醸成する

運営面の見直し：統一的ブランディング
～すべての子どもを育み、子育て家庭を支える～

①周辺への賑わいの波及

◆施設の周辺エリアと一体となった統一的ブランディングにより、地域全体が多彩に賑わい、地域の暮らしや子育てを楽しめるエリアとして活性化する取組みを推進する。【重点】

②多様な活動の受け入れ

- ◆県内の児童館等児童福祉施設の中核機関として、不安や困難を抱える子どもや子育て家庭に気づき、適切な支援につなぐ。
(関係機関との連携構築、職員の研修の実施等資質向上、子どもや子育て家庭へのメッセージの配信等)【重点】
- ◆民間活力を導入したイベント開催のほか、イベント・事業への協賛企業の募集、広告の場としての活用を進める。
- ◆指定管理者や地域住民、企業等、様々な関係者が参加・協力する体制の構築を進める。



元屋地委員

(指定管理者：伊予鉄総合企画株式会社代表取締役社長)

のコメント

ずいぶん前の話ですが、休日に一人で来園して一日中遊んでいる子どもがいました。話を聞くと、家には誰もいないから来ていて、昼食もおかしやカップ麺程度であると答えましたので、それなら、こどもの城のお仕事を少しお手伝いしてほしいと誘い、園内の飾りづくりなどを一緒にして、お礼にお昼ご飯を一緒に食べました。

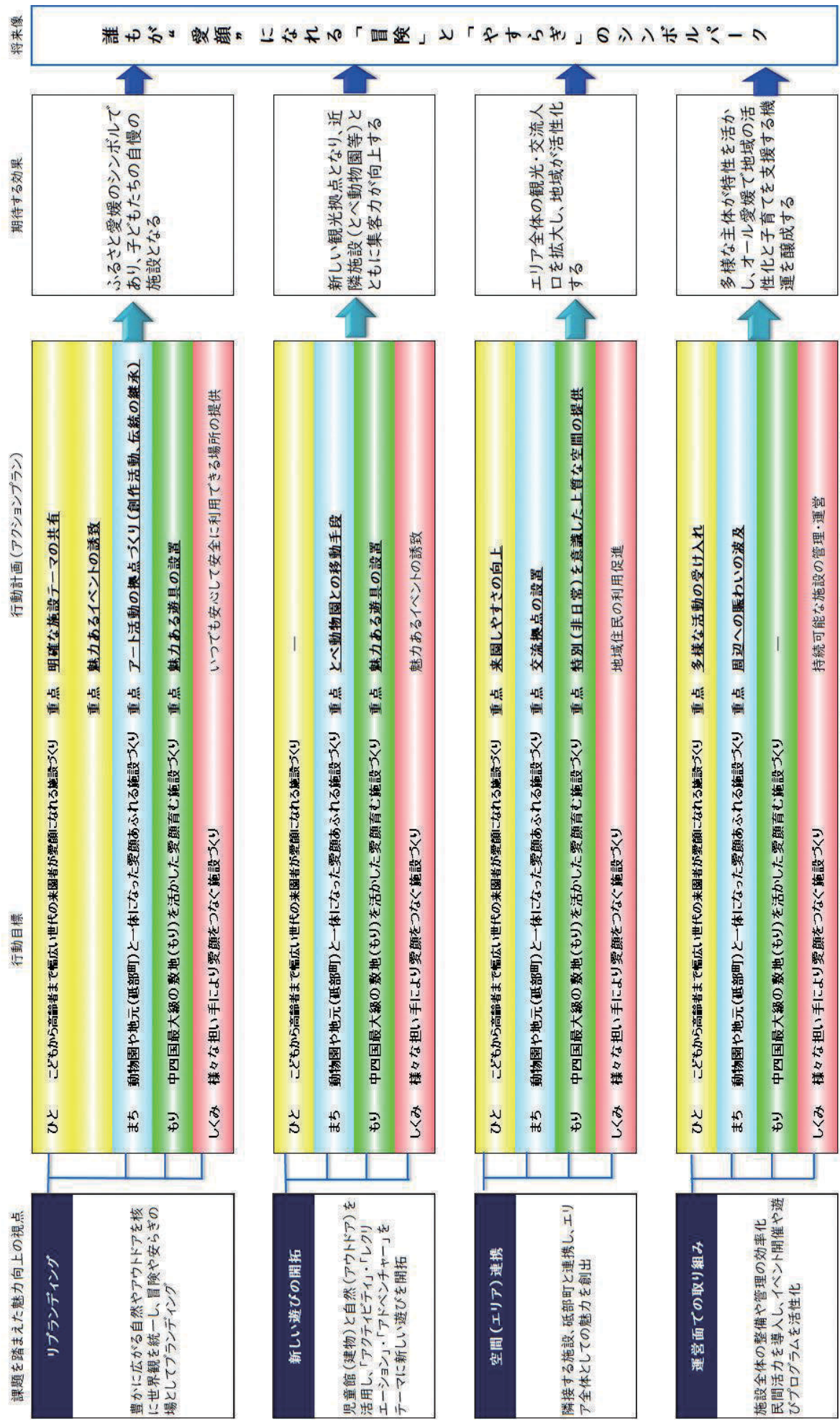
子どもに役割を持たせて、健やかな育ちを支援することを目的に長年実施している「えひめこどもの城子どもボランティア制度」の仕組みの始まりです。

スタッフには、サポートが必要な子どもにきちんと向き合えるスキルの取得と資質の向上が不可欠です。

③持続可能な施設の管理・運営

- ◆収益事業の拡大や開園時間、利用料金の見直しにより、収入拡大と運営経費の適正化を図る。
- ◆遊具及び施設等の修繕・改修等に循環させ、持続可能な施設として運営する。

えひめこどもの城魅力向上戦略の推進イメージ



重点プロジェクトに位置付け、優先して実現を図る取組みは、太字の行動計画に盛り込んでいる。





付 録





えひめこどもの城魅力向上検討委員会設置要綱

(設置)

第1条 えひめこどもの城は、近年、施設や遊具の老朽化が進行しており、開園 20 年を節目として、時代や社会のニーズに対応した持続可能な施設を目指し、とべ動物園との新たな連携策を含めた魅力向上に向けた戦略を検討するため、えひめこどもの城魅力向上検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(任務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について検討する。

- (1) えひめこどもの城の中長期的な運営方針に関する事。
- (2) 施設改修計画に関する事。
- (3) 経営に関する事。
- (4) その他必要な事項に関する事。

(組織)

第3条 委員会は、知事が委嘱する委員 7 名以内をもって組織する。

- 2 委員会に会長 1 名及び副会長 1 名を置く。
- 3 会長は、委員の互選により定め、副会長は会長が指名する。
- 4 会長は委員会を代表し、会務を総理する。
- 5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。

(会議)

第4条 委員会の会議は、会長が招集し、議長となる。

- 2 会長は、必要に応じて、委員以外の者の出席を求め、その意見を求めることができる。

(ワーキンググループ)

第5条 委員会にワーキンググループ（以下「WG」という。）を置く。

- 2 WGは、委員会に付議する議案の調整を行うほか、会長の指示する事項を処理する。
- 3 WGの班員は、別表の職にあるものをもって組織する。
- 4 WGに班長 1 名及び副班長 1 名を置き、班長は、保健福祉部生きがい推進局子育て支援課主幹（同課子育て支援企画係を担当するものに限る。）の職にある者を、副班長は、保健福祉部生きがい推進局子育て支援課子育て支援企画係長の職にある者をもって充てる。
- 5 班長は、WGを代表し、WGの業務を総理し、副班長は、班長を補佐し、班長に事故があるときは、その職務を代行する。
- 6 WGの会議は、班長が招集し、これを主宰する。
- 7 班長は、必要に応じてWGの会議に班員以外の者を出席させ、その意見を求めることができる。

(解散)

第6条 委員会及びWGは、それぞれその任務が達成されたときに解散する。



(庶務)

第7条 委員会、WGの庶務は、保健福祉部生きがい推進局子育て支援課において処理する。

(雑則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、その都度、委員会で定める。

附 則

この要綱は、平成30年4月18日から施行する。

別表(第5条関係)

役 職	組 織 等
班 長	保健福祉部 生きがい推進局 子育て支援課 主幹
班 員	スポーツ・文化部 スポーツ局 地域スポーツ課 スポーツ振興グループ 担当係長
班 員	スポーツ・文化部 文化局 文化振興課 文化振興グループ 担当係長
班 員	県民環境部 環境局 環境政策課 環境計画係長
班 員	保健福祉部 生きがい推進局 子育て支援課 子育て支援企画係長
班 員	土木部 道路都市局 都市整備課 公園緑地係長
班 員	教育委員会事務局 指導部 義務教育課 教育指導グループ 担当係長

えひめこどもの城魅力向上戦略検討経過

時 期	内 容
H30年4月	えひめこどもの城魅力向上検討委員会設置
H30年7月24日	えひめこどもの城魅力向上戦略骨子(素案)検討 【第1回ワーキンググループ会議】
H30年8月2日	えひめこどもの城魅力向上戦略骨子(案)検討 【第1回えひめこどもの城魅力向上検討委員会】
H30年12月14日	えひめこどもの城魅力向上戦略中間報告(素案)検討 【第2回ワーキンググループ会議】
H30年12月17日	えひめこどもの城魅力向上戦略中間報告(案)検討 【第2回えひめこどもの城魅力向上検討委員会】
H31年3月13日	えひめこどもの城魅力向上戦略(素案)検討 【第3回ワーキンググループ会議】
H31年3月15日	えひめこどもの城魅力向上戦略(案)検討 【第3回えひめこどもの城魅力向上検討委員会】



えひめこどもの城魅力向上検討委員会 委員名簿

区分	氏名	所属・役職
学識経験者	鈴木 一光	一般財団法人児童健全育成推進財団理事長
	金子 省子	愛媛大学教育学部教授
	前野 博紀	造形作家・華道家 (えひめ愛顔の子ども芸術祭2017指導者) NPO法人旅するクジラ代表理事
利用者	山本 由美子	NPO法人子育てネットワークえひめ代表理事
	伊藤 悟志	えひめイクメンメンターネットワーク会長 NPO PaPa'n代表理事
施設管理	元屋地 裕之	伊予鉄総合企画株式会社代表取締役社長 (えひめこどもの城指定管理者)
所在地 (行政)	上田 文雄	砥部町 副町長

計7名